

【現代文B・二学年】

実施日：令和2年9月24日(木)第3限

単元(教材)名
「走れメロス」を批判的に読む

【この単元のねらい・目標】

「走れメロス」は中学校での、いわゆる「定番教材」である。今回はこの作品の再読を通して、主人公中心に読む初読の読みを批判的に読み、「群衆」に着目して読むことで、読みの枠組みの更新を目指す。更に、他の教材と重ね読みをすることで、「流されないでいることはできる？」という学習課題を自分事として捉え、考えたことを自分なりに表現する授業を構想した。

【本時のねらい・目標】

前時に「群衆」について立てた問い（「なぜ群衆は刑場に集まったのか」等）を考えることを通して、「群衆」を批判的に読み、それまでの読みの枠組みを更新する。

【この教材で特に意識する「科学的思考力(SW-ing SLC)」】

項目	内容
D 情報分析力	ii 「群衆」に着目して問いを作り、本文に根拠を求めて問いを考えることを通して、作品を批判的に読み、新たな読みの枠組みを手に入れる。

【ICT機器の使用場面とその目的】

電子黒板の活用(目的：板書を省き、効率よく授業の流れを説明するため)

【教材開発において特に意識したこと・工夫】

主人公（主要登場人物）中心の読解を見直し、問いを基に「語り」を批判的に読むという高次レベルでの読解を行うために、中学校での既習教材を活用すること。

【全体の指導計画（全4時間）】

- 第1時 高校段階での初読の読みを物語文の作成を通して自覚し、「メロスを勇者だと思いか否か」について根拠を探しながら読むことで、批判的に読む土台を作る。
- 第2時 前時の感想や疑問を共有した上で、「メロスを勇者として見せているものは何か」を考え、本文を「勇者として演出する表現は何か」という観点から読む。
- 第3時 「群衆」について自分たちが立てた問いを基に、「群衆」を批判的に読むことによって、「走れメロス」を読む新たな枠組みを見出す。・・・【本時】
- 第4時 別の作品と重ね読みすることで、「流されないでいることはできる？」という問いについて考え、自分なりの考えを文章に表現する。

【第3時の授業展開】

時間	内容
10分	1、これまでの授業を振り返り、本時の問いを確認する（電子黒板を用いる）。
20分	2、前時に立てた「群衆」についての問いを、教材本文を根拠に考える。
5分	3、「群衆」を主語にした物語文を作成する。
5分	4、関連する新聞記事を読み、作文の課題について理解する。
10分	5、重ね読みする作品を受け取り、次時取り組む作文を構想する。